



遠く離れた牧場から届ける までいな味と感謝の気持ち

小林牧場
小林 将男さん

飯館村から370キロメートル離れた千葉県山武市。小林さんは、震災後に牛たちとこの地へ避難してきました。牧場の牛は約150頭。そのすべてが飯館牛の血統を受け継いだ「までいな牛」です。

「受入先の牛舎を探していたとき、山武市の空き牛舎をご紹介いただいたんです。畜産仲間の牛も助けたかったので、自分の牛と一緒に7〜8頭ずつ車に乗せ、2週間かけて連れてきました」

苦勞して避難したものの、当時は「福島」から来たというだけで思うように販売できず、商品が半値になることもありました。それでも、村の方言である「までい(丁寧)(手間を惜しまず)」の気持ちで牛の世話を続け、飯館牛の血統を守ってきた小林さん。

「牛は帰れなくても、商品だけでも里帰りさせたい」と、今年4月に



▲商品名は「出会い」という意味の「ENCOUNTER」。現在は第2弾、第3弾の商品を企画中。

◀牛肉のソーセージは珍しいということもあり、千葉県でも話題に。



はいいたて村の道の駅までい館と福島相双復興推進機構と共に、ソーセージを商品化しました。ソーセージはまでい館で限定販売しています。

「多くの人の支えがあって、今も牛たちの世話ができています。たくさんの人に「までいな牛」を届けることで恩返しがしたいですね」

【問い合わせ】
いいたて村の道の駅までい館
☎0244(42)1080